ＡＩＤＳネットワーク横浜　ニュースレター

発行：特定非営利活動法人　ＡＩＤＳネットワーク横浜
〒231-0015　横浜市中区尾上町 3-39　尾上町ビル９Ｆ
℡：045-201-8808　fax：045-201-8809
ホームページ http://www.netpro.ne.jp/any/
e－mail：any@netpro.ne.jp

2020ＡＩＤＳ文化フォーラム参加報告
オンライン講演による
～ＨＩＶ陽性者の生活とソーシャルワーカーの役割～

横浜市大病院ソーシャルワーカー　　瀬尾　緑氏

報告：事務局長　堀尾吉晴

横浜市大病院ソーシャルワーカー瀬尾緑さんに表題の内容で講演をしていただきました。ＨＩＶが死に至る病ではなくなり、ＡＩＤＳにもならなくなっています。それには感染者の方の不断の努力が不可欠ですし、本人、家族だけでなく、周囲の理解と励ましも不可欠です。いまだにＨＩＶ,ＡＩＤＳに対する偏見や差別が垣間見えます。直接治療に当たる医師、看護師だけでなく、本人を支え、周囲の理解を進め、感染者とともに具体的な生活を支えていくソーシャルワーカーの役割と障壁の実際を現場から伝えてもらいました。

〈経過〉

ＡＩＤＳ文化フォーラム事務局から、オンライン講演（１団体１講座４５分）で実施の方向との連絡を受け、元々文化フォーラムに予定していた市大病院Ｓ．Ｗ.瀬尾　緑さんの快諾をいただき、「ＨＩＶ陽性者の生活とソーシャルワーカーの役割」の講演でエントリーすることを７月の運営委員会で決定しました。
オンライン講演に対応するため、パソコン、Ｗｅｂカメラなどを新規に購入し、Ｚｏｏｍというソフトでのテストなどを行い、当日を迎えました。

〈実施〉受講者は、文化ﾌｫｰﾗﾑに事務局に登録申請して、Zoom 会議にＰＣまたはスマホで参加するのですが、見るだけなら You Tube で誰でも申請せずに可能です。当日

の参加者数は Zoom 108 You Tube 76 主催関係者 18 の 合計２０２人と連絡がありました。例年の参加者より多いじゃないかと思いましたが、当たり前ですよね。北海道から九州まで、横浜に来なくても参加できるのですから。

様子は写真のとおりですが、瀬尾さんの パワーポイントを使用した、流れるような話しぶりは流石で、予定通り３０分少々で終わり、その後に表示された質問一つ一つに答えられていました。

事後の参加者アンケートは、講演直後から次の講演までの間に送られてくるのですが、４７通に上り、「参加目的は達成されたか」には、大いに１２．できた３３、あまり２ の答えがあり、
年齢は１０代 ９、２０代 ２４、４０代 ５、５０代 ４、６０代 ３、不詳 ２
職業は 学生 ３３、保健・医療・福祉関係 ５、教育 ３、ＮＰＯ ４、ほか２ でした。

〈感想・質問〉

- 陽性患者さんが来院出来るようアプローチし続けていいのか悩んでいたので、大変参考になりました
- 本来味方であるはずの医療従事者が、HIV 患者さんの生きづらさの一因になっていると知ってとても胸が痛みました。私はきっと、“そうじゃない”医療従事者になります。よいお話が聞けました。ありがとうございました。
- とてもよく準備された構成であったと思いますし、よく理解できました。私は、障害者手帳の取得などにより、治療はほぼ無料になるものと思っておりましたので、知識を更新しておきます。あと、以前受けた講習会でも、介護施設などで拒否されるという話を伺っておりました、かれこれ 8-9 年になりますが、それがいまだに変わっていない状況に、とても残念な気持ちになります。その受入をしないところに看護職者も入っているのであろうと思うと、本当に残念です。
- 透析を断られた事例で、医療者の中でも HIV への無理解が多いことに驚かされた。医師、看護師などの専門以外の知識は更新されないのでしょうか。無知が被害を生み、命を脅かすことになる。
- よく準備されたお話で、理解しやすい中に、改めて考えさせられる内容も盛り込まれていました。（例）HIV 患者さんの心理など。聴講してよかった!!
- 質問にしっかりお答えいただけてとても満足度が高かったです。ありがとうございました。ソーシャルワーカーの養成課程で HIV・AIDS にはあまり触れてはなかったんだって話、少し衝撃的でした。ほんとに若い人の性感染症ではなく、慢性疾患になっているってことがすごく伝わりました。
- わかりやすく、ききやすい講座でした。元大学病院の看護師でしたが、な

かなか関わる方も、学ぶ場もなく、書籍やネットや新宿のアクタでの学びでしたので、現場のお話は大変貴重でした。確かに、AIDS の単語に触れる機会(映画やドラマや保健体育授業しかない)が少なく、身近なテーマではない方も多いと思います。ただ、病気だけの学びでなはく、ＱＯＬを考える上で、ジブンゴトとして学び考えるテーマだと思います。有難うございました。

・　自分の知識がなかった。お金の事、高齢化のことなどわかった。
・　スライドの PDF が欲しかったです。
・　地方から会場への参加は困難なので、今後もこのようにオンラインで開催頂けると、日本のどこにいてもこのような内容を学べると思います。ぜひ、ご検討ください。
・　容易に解決が得られないテーマについての非専門家による中身の薄いトークショーよりも、実（じつ）のある講義を増やしてほしい。

コロナ禍で社会全体が自粛（萎縮？）するなかで、感染予防策をきちんととった活動を実施していくことの大切さを感じて終了しました。

準備をされた文化フォーラムスタッフの皆さんと、講演を引き受けていただいた瀬尾さんに感謝申し上げます。

15 年間、ＡＮＹの電話相談を担当して

小林　正二

長い間、お世話になりました。ありがとうございます。

ＡＮＹに入会するきっかけは、それまで在籍していた「日本中高年性教育研究会」で中高年の性の講座を受講し電話相談をしていましたが、研究会が解散となってしまったので、これからどうしようか？と思っていました。結局、ＡＮＹの受講者募集のチラシを見て平成 16 年（2004 年）「第 12 期ＡＩＤＳボランティア学校」を受講することにしました。

その当時、ＡＮＹ受講申し込み書には【「日本中高年性教育研究会」の電話相談『心とからだ』の相談員をしていますが、ＨＩＶ／ＡＩＤＳに関して詳しい知識がなく、勉強してみたい】と書いていました。当時のボランティア学校のプログラムを見てみますと

「ＨＩＶ／ＡＩＤＳについて」北村勝彦先生、「ＨＩＶ検査について」嶋孝子先

2018 年度の世界エイズデーの一コマ
小林さんは、右端

生、「いろいろな性」安達倭雅子先生、「カウンセリングの基礎」小島賢一先生、「性感染症」今井一夫先生となっています。
先生の顔触れは今とあまり変わりませんが、優秀な先生方に教わってありがたいと思いました。ＨＩＶ／ＡＩＤＳについて基本をしっかり教わっているので、電話相談の活動で不安になったり、どうしたら良いか判らないということもなく、今日電話相談を終えることができたことを幸せに思います。（令和 2 年 3 月 28 日記）

〈小林さんへ、ありがとう！〉
2019 年度をもって退会された小林さんに今までの活動を振り返っての原稿をお寄せいただきました。まだまだ、相談員としてご活躍していただきたいのですが残念です。
小林さんは学習意欲が旺盛でボラ学校の講義ではよく質問をされていたことが印象に残っています。そして誠実なお人柄という一面は、電話相談の対応によく表れていました。
電話相談のシフトが一緒になった時、傾聴ボランティアとしてお住いの近くの施設でお話相手のボランティアをされていることなどを教えていただきました。人と人とのかかわりあいを大事にされていることを改めて感じ、楽しいひと時でした。
お世話になりました。ありがとうございました、感謝です。（中野久恵）

～お知らせ～

2019 年度、当団体へご寄付をいただいた方

いただいたご寄付は、ＡＮＹのさまざまな活動に活用させていただいています。ここにお名前を掲載し、感謝申し上げます。

市川由美子様　　岡安敬夫様　　笹田照雄様
サンセット２１ライオンズクラブ様
ステイト工業様　　（有）まるこ家具店様
横浜商工会議所様

お知らせ

例年、そごう入り口前の広場で行っていた横浜ＡＩＤＳ市民活動センター主催の「世界エイズ―デー」のイベントは、今年は中止です。

電話相談件数

６月：26 件（7 回）７月：２８件（9 回）８月：２０件（8 回）